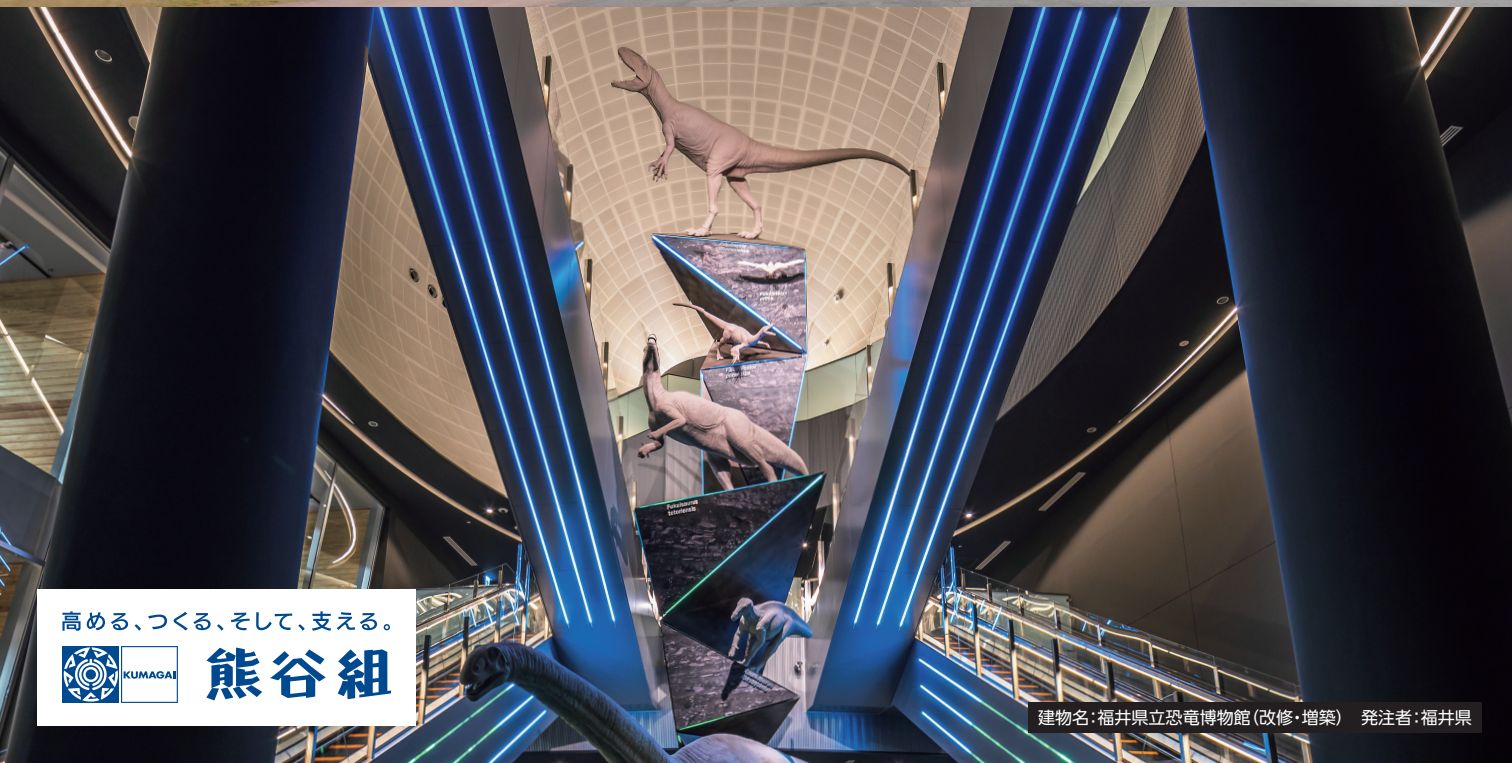


第87期 中間株主通信

2023年4月1日▶▶2023年9月30日



高める、つくる、そして、支える。



熊谷組

建物名: 福井県立恐竜博物館(改修・増築) 発注者: 福井県



ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜りありがたく厚くお礼申し上げます。

さて、当社は2023年9月30日をもって第87期(2023年4月1日から2024年3月31日まで)の前半を終了いたしましたので、ここに上半期の概況についてご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2023年12月

取締役社長 櫻野泰則

当上半期の業績

当上半期における我が国経済は、雇用・所得環境が改善する中で、個人消費に持ち直しの動きがみられ、設備投資もソフトウェア投資を中心に堅調に推移しました。加えて、供給制約の影響緩和やインバウンドの回復等により、企業収益は全体として高水準であり、景気は緩やかに回復が進みました。

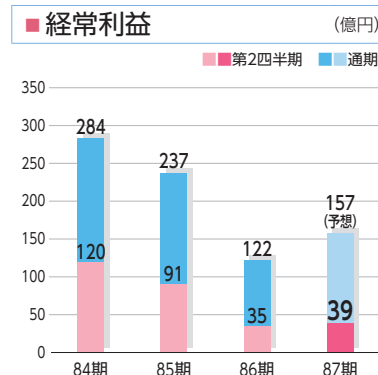
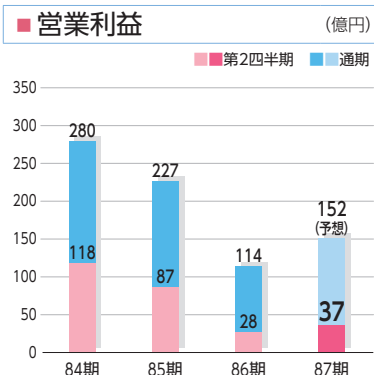
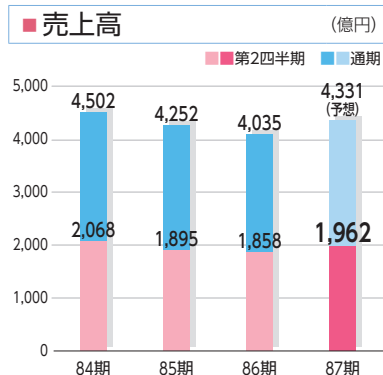
建設業界におきましては、住宅建設投資は建設コスト高止まりや金利上昇への懸念から弱含んでいます。一方で、民間企業の建設投資は一部に弱さがみられるものの底堅く推移しており、公共投資は関連予算の執行により堅調に推

移するなど、受注環境は総じて堅調でありました。しかし、資材費や労務費の上昇もあり、採算面では一部に厳しさが残りました。

このような経営環境のもと、当社グループは2021年5月に策定した①建設請負事業の深化、②建設周辺事業の進化、③新たな事業領域の開拓、④経営基盤の強化を基本方針とする『熊谷組グループ 中期経営計画(2021～2023年度)～持続的成長への弛まぬ挑戦～』にグループ一丸となって取り組み、持続的成長への挑戦を続けているところであります。

当上半期の当社グループの連結業績につきましては、売上高は、手持ち工事の順調な消化により前年同期比5.6%増の1,962億円となりました。利益は、売上高の増加及び

連結業績ハイライト



売上総利益率の改善により、営業利益は同33.1%増の37億円、経常利益は同13.8%増の39億円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は法人税等13億円などを加減算し、同8.5%増の24億円となりました。

対処すべき課題

今後の我が国経済は、政府の各種政策の効果や雇用・所得環境の改善により、個人消費や企業収益の緩やかな回復の継続が期待されます。他方で、ウクライナや中東地域をめぐる情勢、世界的な金融引締め、中国経済の先行き懸念等、海外景気の下振れや物価上昇などのリスクを孕んでおり、景気は依然として先行き不透明な状況にあります。

建設業界におきましては、民間企業の建設投資は企業収益の改善等を背景に持ち直しの動きが続くと思われます。また、公共投資については2023年度予算は前年度とほぼ同水準が確保されており、自然災害の激甚化・頻発化や社会インフラの老朽化など、人々の暮らしや産業の発展を支える基盤の持続性に大きな懸念が生じる中、防災・減災、国土強靱化への計画的な投資により引き続き堅調に推移すると予想されます。一方で、原油高や建設資材高といった採算悪化や需要減退を招くリスク要因の動向を注視していく必要があります。

このような経営環境のもと、当社グループは前述の中期経営計画(2021~2023年度)に則り、持続的成長へ向けた諸施策に引き続きグループ一丸となって取り組んでまいります。

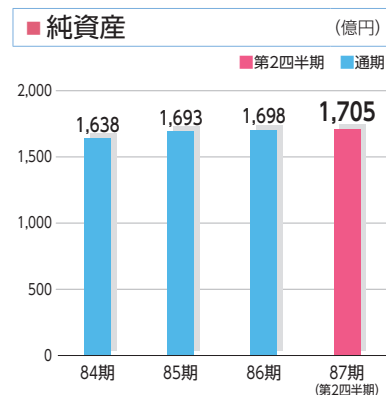
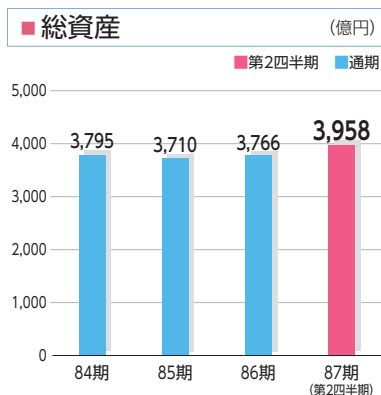
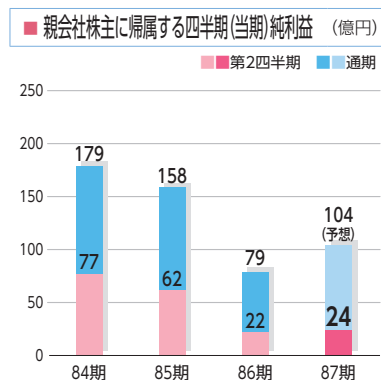
「北海道新幹線、羊蹄トンネル(有島)他」工事における虚偽報告について

2023年4月に当社を代表とする特定建設工事共同企業体が施工する「北海道新幹線、羊蹄トンネル(有島)他」工事における、コンクリート品質管理試験において、試験実施頻度に関する虚偽報告を行っていたことが判明しました。発注者様をはじめとするご関係の皆様にご迷惑をお掛けしたこと、また株主の皆様にはご心配をお掛けし、誠に申し訳なく改めて深くお詫び申し上げます。

本事案判明後、特任対策委員会を立ち上げ、原因究明及び再発防止対策、当該コンクリートの健全性、他の工事における同様の不正の有無の確認・検討を実施いたしました。この確認・検討に際しては、経営から独立した法遵守監査委員会の監視・指導・勧告を受けております。

発注者立会いのもと各種調査・検査を実施した結果、虚偽報告期間中に施工したコンクリートは、設計基準強度を満たしており充填状況にも異常はなく、健全性に問題はないことが確認されたとともに、他の工事においても問題は確認されませんでした。また、原因究明のためのヒアリング等の結果、コンプライアンス意識の不足、品質管理に関する基本的認識の不足、作業所における報連相の不足、マネジメント能力の不足、品質管理体制の不備が当事案の主要因であることを確認し、これらの原因の分析・精査を踏まえ、役職員の教育の徹底、品質管理体制の強化及び作業所における諸問題の把握といった再発防止対策を講じることいたしました。

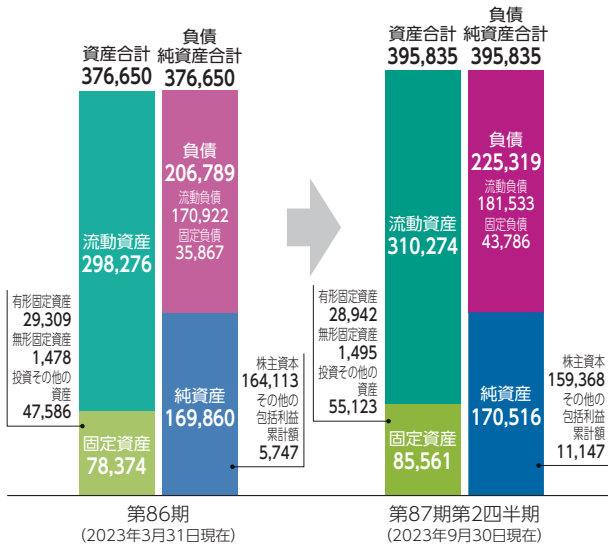
当社は「ものづくりの原点」に立ち返り、確かな品質こそが「信頼」の核であることを改めて認識し、信頼回復に向け不退転の決意をもって再発防止に取り組んでまいります。



四半期連結財務情報(要約)

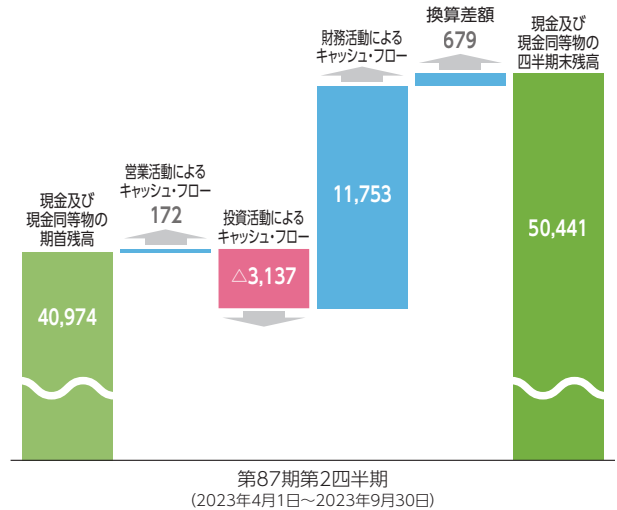
■ 四半期連結貸借対照表の状況

(百万円)



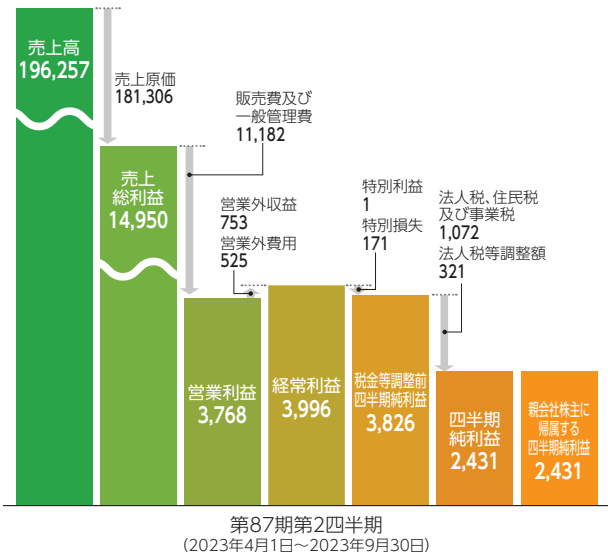
■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書の状況

(百万円)



■ 四半期連結損益計算書の状況

(百万円)



ポイント

■ 四半期連結貸借対照表

総資産は3,958億円と前期末に比べて191億円増加しました。これは、借入れによる現金預金の増加に加え、米国における不動産開発事業への投資や保有株式の時価上昇による投資有価証券の増加等によるものです。また純資産は1,705億円となり、自己資本比率は前期末に比べて2.0ポイント低下し43.1%となりました。

■ 四半期連結損益計算書

売上高は前年同期に比べて104億円増加の1,962億円となり、売上高の増加及び売上総利益率の改善により経常利益は3996円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は法人税等の計上により2431円となりました。

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

仕入債務等の減少の一方、税金等調整前当期純利益の計上や預り金の増加などにより、営業活動は1億円の資金増加となりました。投資活動では関連会社への貸付等による支出などにより31億円の資金減少となりました。財務活動では配当金の支払いや自己株式の取得等があった一方、借入れの実行などにより117億円の資金増加となりました。これらの結果、現金及び現金同等物の残高は、前期末に比べて94億円増加の504億円となりました。

単体の業績について

受注高は、前年同期比9.0%増の1,299億円となりました。このうち、土木工事は482億円、建築工事は816億円であり、これらの発注者別内訳は官庁27.8%、民間72.2%であります。

売上高は、同5.1%増の1,479億円となりました。このうち、土木工事は448億円、建築工事は1,030億円であり、これらの発注者別内訳は官庁22.0%、民間78.0%であります。

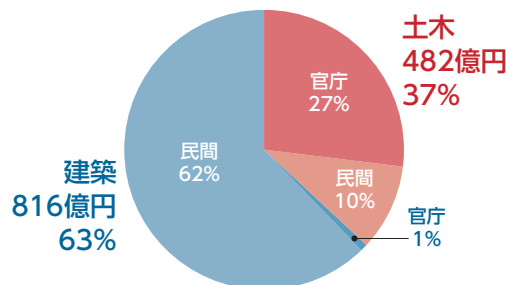
この結果、下半期への繰越高は、同11.4%増の5,168億円となりました。

利益につきましては、経常利益は37億円、四半期純利益は26億円となりました。

■ 損益等の状況

区 分	87期上半期	前年同期比
受 注 高	1,299億円	(9.0%増)
売 上 高	1,479億円	(5.1%増)
繰 越 高	5,168億円	(11.4%増)
四 半 期 純 利 益	26億円	(23.0%減)

■ 受注高構成



主な受注工事及び完成工事

受注工事

- 横浜新道 新保土ヶ谷 I C～川上 I C 間付加車線工事：東日本高速道路株式会社
- 令和4年度防災・安全交付金(道路)工事：長野県飯田建設事務所
- 獨協医科大学総合教育研究棟(仮称)建設工事：学校法人獨協学園
- (仮称)安城市大東町商業施設計画新築工事
(仮称)三井ショッピングパーク ららぽーと安城)：三井不動産株式会社
- ジャカルタ下水道整備事業(第1区)パッケージ3：インドネシア共和国公共事業・国民住宅省居住総局



北大阪急行線の延伸事業のうち土木工事

日連連表彰2023 土木賞受賞

完成工事

- 北陸新幹線、新北陸トンネル(大桐)：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構
- 北大阪急行線の延伸事業のうち土木工事：北大阪急行電鉄株式会社
- 京都高島屋 S.C. T 8：東神開発株式会社
- オウカス 世田谷仙川：野村不動産株式会社



オウカス 世田谷仙川

2023年度 グッドデザイン賞受賞 (当社設計施工)

脱炭素バイオマス燃料の製造拠点の建設に着手

当社と清本鉄工株式会社は、共同開発した脱炭素バイオマス燃料「ブラックバークペレット(国産バーク材原料、以下BBP)」を本格的に製造・販売するため、「ローカルエナジーシステム株式会社」を共同で設立しました。さらに製造拠点となる工場を愛媛県西条市に建設します。

現在のところ、木を製材し木製品とする過程で発生するバーク材(木の皮)は、使いみちがなく廃棄物として扱われています。そのことから、バーク材を活用し木を無駄なく利用することが国内林業の新たな道の開拓、ひいては林業の活性化につながると考え、2021年にバーク材を原料とした脱炭素バイオマス燃料を開発しました。その後外部企業にてBBPの試験燃焼を実施し一定の評価を得られたことから、BBP製造拠点の建設に着手しました。

建設地は、県及び市の双方が積極的に脱炭素の取り組みを実施している愛媛県西条市とし、同県並びに同市と連携し、地域の方々と一体となった事業を展開します。

当事業により、国内林業の活性化、さらには石炭火力発電へ混焼材として利用することにより、CO₂排出量を減少させ脱炭素社会の実現や安定的な電力供給への貢献を目指します。



ブラックバークペレットで
地域の林業を 地域のエネルギーに

Local Energy System



完成予想図

若手研究員によるワーキング活動「未来のまちPROJECT」

当社は、技術本部所属の若手研究員が長期的なビジョンを持ち、未来を見据えた研究に取り組むことを目的にワーキング活動「未来のまちPROJECT」を進めています。

当ワーキングでは、材料や構造、環境や情報・ロボティクスなどそれぞれに専門分野を持つプロジェクトメンバーが集まり20年、30年後に自分たちが住みたい“まち”をデザインし、実現するために必要な技術について議論しました。

『「物理的豊かさ」のみでなく、人々が協働し、創り上げる『心豊かに生きる空間』を追求することにより、社会全体に豊かさをもたらしてくれる“まち”を創る』をテーマとし、そこから6つのコンセプトを決定しました。さらに、実現するために必要な技術として「空中浮揚」を導き出し、様々なアイデアが生まれました。

今後も「豊かなまち」を実現するため挑戦を続けてまいります。

6つのコンセプトと実現するための技術「空中浮揚」

1. 自然と共生する“まち”
2. 防災を完備する“まち”
3. 人と人とが相互交流する“まち”
4. デジタルによって変革する“まち”
5. みんなが等しく生活する“まち”
6. 人流・物流が調和する“まち”



浮く = 空中浮揚

「空中浮揚」を核とする3つの提案技術

○粒子バリア×音響浮揚

雨・花粉・火山灰等細かな粒子をはじくための「音響浮揚」技術

○モノ・ヒト輸送×空気浮上

モノ・ヒトの移動を自由にする「空気浮上」技術

○防災×磁気浮上

命や財産を守るために、災害発生時にビルや街全体を浮かす「磁気浮上」技術



詳細はこちら

会社の概要

(2023年9月30日現在)

創業 1898年1月
設立 1938年1月
資本金 301億851万615円
従業員数 2,713名

主要な営業所

本店
福井市中央2丁目6番8号
〒910-0006 TEL(0776)21-2700

東京本社
東京都新宿区津久戸町2番1号
〒162-8557 TEL(03)3260-2111

北海道支店
札幌市中央区大通西7丁目3番地1
〒060-0042 TEL(011)261-7271

東北支店
仙台市青葉区上杉5丁目3番36号
〒980-0011 TEL(022)262-2811

首都圏支店
東京都新宿区津久戸町2番1号
〒162-8557 TEL(03)3260-4750

名古屋支店
名古屋市中区栄4丁目3番26号
〒460-8402 TEL(052)238-3011

技術研究所
つくば市鬼ヶ窪1043番地
〒300-2651 TEL(029)847-7501

海外拠点
ベトナム、インドネシア、ミャンマー

北陸支店
金沢市広岡2丁目13番5号
〒920-8721 TEL(076)208-3230

関西支店
大阪市西区靱本町1丁目11番7号
〒550-0004 TEL(06)6225-2226

中四国支店
広島市中区大手町4丁目6番16号
〒730-0051 TEL(082)241-3222

四国支店
高松市木太町3027番地1
〒760-0080 TEL(087)862-2011

九州支店
福岡市中央区渡辺通4丁目10番10号
〒810-0004 TEL(092)721-0011

沖縄支店
那覇市泉崎1丁目21番13号
〒900-0021 TEL(098)862-7829

役員 の 状 況

(2023年9月30日現在)

取締役及び監査役

取締役社長 (代表取締役)	櫻野 泰 則	取締役	吉田 栄
取締役 (代表取締役)	嘉藤 好 彦	取締役	岡田 茂
取締役 (代表取締役)	小川 嘉 明	取締役	桜木 君 枝
取締役	日高 功 二	取締役	奈良 正 哉
取締役	上田 真	常勤監査役	川野 輪 政 浩
取締役	岡市 光 司	監査役	山田 章 雄
取締役	佐藤 建	監査役	上田 美 帆

(注)取締役吉田栄、岡田茂、桜木君枝及び奈良正哉の各氏は社外取締役、監査役山田章雄及び上田美帆の両氏は社外監査役であります。

グループ会社

株式会社ガイアート
東京都新宿区新小川町8番27号
〒162-0814 TEL(03)5261-9211

ケーアンドイー株式会社
東京都千代田区富士見2丁目7番2号
〒102-0071 TEL(03)3512-2211

華熊營造股份有限公司
台湾台北市大安區敦化南路一段205号
TEL +886-2-2721-0427

テクノス株式会社
愛知県豊川市穂ノ原2丁目1番地
〒442-0061 TEL(0533)84-1111

株式会社ファテック
東京都新宿区津久戸町2番1号
〒162-8557 TEL(03)3235-6269

テクノスペース・クリエイツ株式会社
東京都豊島区東池袋3丁目12番12号
〒170-0013 TEL(03)5960-1070

株式会社テクニカルサポート
東京都新宿区津久戸町2番1号
〒162-8557 TEL(03)3235-8131

コーポレートレポートのご案内

本年9月に「熊谷組グループ コーポレートレポート2023」(A4判、88頁)を発行しました。当社グループの経営方針、事業戦略や価値創造の取り組みについて紹介しています。

冊子をご希望の方は(有)インフォワードが運営する「エコほっとライン」からお申し込みください。

エコほっとライン 熊谷組

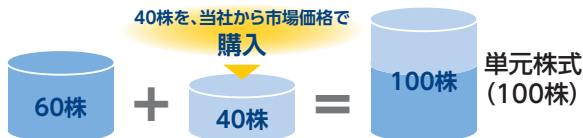
検索



単元未満株式の買増請求制度のご案内

100株(単元株式)に不足する数の株式を、当社から市場価格で買い増し、単元株にすることができる制度です。

(例) 60株を保有の場合、40株を買い増して、100株とすることができます。



各種お手続きのお申し出先

①証券会社口座にある株式 → お取引先の証券会社

②特別口座にある株式 → 三井住友信託銀行

(下記までお問い合わせください。)

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

☎0120-782-031

<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

配当金のお支払期限について

配当金のお支払期限は定款の定めにより支払開始日から3年となっております。

支払開始日から3年以上経過した配当金については除斥期間を経過したものととして、ご請求いただいてもお支払することができません。配当金はお支払開始後お早目にお受け取りください。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から 翌年3月31日まで	株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
定時株主総会	毎年6月開催	同 連 絡 先	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 剰余金の配当 毎年3月31日 そのほか必要あるときは、あらかじめ 公告して定めた日	郵 送 先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
単元株式数	100株	電話照会先	☎0120-782-031
上場証券取引所	東京証券取引所	公 告 の 方 法	当社のホームページに掲載します。 < https://www.kumagaigumi.co.jp/ > ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告 をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
証券コード	1861		

表紙写真 建物名:福井県立恐竜博物館(改修・増築) 発注者:福井県

恐竜化石の宝庫である福井県勝山市に2000年7月に開館した福井県立恐竜博物館の改修並びに増築を行いました。今回新設した銀色の卵型ドーム「小タマゴ」の内部は、3層の吹抜けになっており、中心には福井で発見された恐竜5種と鳥類1種を象った高さ約13mのシンボルモニュメント「恐竜の塔」が配置されています。ほかにも1階の特別展示室では、壁3面の大型スクリーンに映し出された恐竜たちが来館者を迎えるなど、楽しませる仕掛けが施されています。



熊谷組

〒162-8557 東京都新宿区津久戸町2番1号
TEL (03) 3260-2111
<https://www.kumagaigumi.co.jp/>

